

果樹取扱の草々

大 岩 金

桃の花が垣根越に美事に咲いて居ります。下の方には花一つありません。もし結實したら踏臺か梯でもの厄介にならねば收穫は困難であります。

枝が誠によく伸びて居りますが花は少しも咲かない。どうも思ふ場所へ枝が出ないとか、又は枝の勢が弱くて整枝が出来ぬとか、花は咲いても實が落ちて收穫が見られぬ等といふ様な事柄のことをよく聞いたたり、見たり致しますから思ひ出るまゝに是等取扱の草々を記します。

植 付

寒地では何といつても早春に植付けねば不利であります。暖地では十二月頃が植時であります。

前者の早さに過ぎます時は霜害を被ひり易く枯死する事がありますが、後者はその害を見ず早春には、早見事な鬚根を生じて發芽も早いのでありますから、秋の植付が有利であります。

植付距離は成長して後に密に過ぎない様にすればよいのであります。で根張は正しいのを選ぶべきであります。どうも根の張り具合と枝の張り具合とは同形のやうでありますから。

で根の切り方でもあります。是に上方式と下向式との二校式があります。上方式といひますのは切口の面が上にあり、下向式といひますのは断面が下に向つてゐるのであります。そこで上方式に

根を切りますと根の發根は下方に向つてするため多くは直根を生じ易く、施肥の効も甚少となり生育が悪い譯であります。又場合に依りましてはこの事の必要な時もあります。例へば風の強い所とか土質の砂質の場合等さうであります。下向式といひますのは發根が上方に出ます爲、地表面に多くの根を生じ、肥料の吸収に適し、一般的持に桃等の場合には必要な切り方であります。

根廻

是は普通常綠樹の場合特に松等の移植の時に利用されるものであります。柑橘類等の時は必要であります。秋根の廻りを掘つて根を切り、綱等で搦めておくのであります。この方法を一度に周圍全部を行ひますと、枯死する慮のあります時は、二年以上にわたつて根廻をして始めて移植する事もあります。

肥料

果樹の目的に依りまして、相違はありますが、一般には三回か四回に分施するものであります。第一回は冬期に遅効肥料（堆肥等）を多量に特に灰類を多く混入して施用致します。

第二回は開花前後に「芽出し肥」として行ふものであります。多量に施しますと熟期を遅らします作用がありますから、普通水七人糞三の割合位のを施用するのであります。又多量に施用しました場合には、徒長しまして爲に落果する事さへありますから、其の度に注意を要します。

第三回は果實收穫直後であります。樹勢を補ふ爲にするのであります故、濃厚肥料を多量に施用しなければなりません。

尙芽出し肥の直後に熟期を遅すのを目的として少量を追施する事もあるのであります。

それで一年間の肥料要素としての表を示しますと

窒素 一

磷酸 一・五

加里 二

を理想割合とする様であります。が尙石灰をも時々施用しますと肥効が顯著であります。

切 枝

果樹の種類に依りまして異なりませんが、大體芽の着際の反對側の點から、四十五度の角度で切りますのを理想として居ります。若しあまり芽から離れた點から切りますと、芽から上部は枯死します爲にその部分に害蟲のかくれ場を與へる事になりますと、同時にその點から出た枝は、切口を完全に巻き込み一本の様な形をする事なく、その爲に枝折れ等を生ずる様な不利があります。又あまり芽に接し過ぎて切りますと、芽を枯死させるとか、發芽しましても充分切口を巻き込む前に少しの事で折れる事が多いのであります。

次に葡萄の事ではありますが、これは前回にも述べました様に芽と芽との中間或は、次の芽の上を枝に直角に切る必要があるのであります。

環狀剝皮

この方法は主に徒長を防いで結果枝を作る目的で行ふものでありますが、時として果實の熟期を早め味を向上させる目的で行ふ場合もあります。

桃は本法を行ふ事は不利であります。何となれば切口から樹脂が出ますので、

梨、苹果、葡萄等に行ひます。普通梅雨期がこの適期でありまして、枝の皮を環狀に一握位の幅に剝皮するのであります。然しあまり屢々行ひますと不利であります。又あまり強すぎます枝の場合の如きは、二回位は結果が好いものであります。

葡萄の場合は、前記のやうに果實の味を甘くし早熟にする等施行して有利であります。が、過用し

ますと樹勢を損ずるものであります。でこの事の原因を少し附記しますと、皮を環状に剥ぐ爲に養分は維管束を行きますが、行つた養分の歸り途が（韃皮部）剥ぎ取られて居りますので行く丈で歸りません爲養分即ち、有機質が多く蓄積するので甘味を増して早熟するといふ事になるのであります、尙よく／＼申し添へますが是を施行する樹は強いものである必要があります。

目 傷

目の形に傷を付けるので目傷といふのであります、この傷の深さは木質に達するのを度と致します。

目的の一は求める枝を充分成長させる爲であります。その二は結果枝を作る爲であります。で芽の上に傷を付けますと枝がよく生育しますし、下に致しますと結果枝を作る爲であります。この方法の多く用いられます種類は、梨、苹果等であります。

して、特にピラミッド型の整枝の場合に求める枝を成長させますのに用ひられます。行ふ時期は枝を作り出すには二月下旬頃。結果枝を得ます爲には九月頃がよいとされて居ります。

枝 折

徒長を防ぎ、結果枝を作る爲に行ふのであります。が、又枝の向を變へる時等にも利用致します方法は枝に鋸傷を付けてから折るのであります。

尙枝曲等といふ事が葡萄に行はれます。即ち下枝の結果に勢力を付ける爲であります。

其の他横傷を付けて樹幹を肥らす等種々の取扱及、接木の方法等記述致したいと思ひましたが、先づこの位で本稿は擱筆することに致します。

皆さまから御丁寧な御年賀状を戴き有り難く存じます。私からはついで失禮のまゝ打過ぎた向も多かつたことと思ひますので、誌上を借りて御挨拶とお禮とを申し上げます。

一月

倉橋 惣三